

代表質問

勝山市の未来を拓く会代表

乾議員

滞在型観光地を目指して
―宿泊施設の充実―

Q 質問 恐竜博物館来館者が70万人に近づいている。観光客へのサービス産業の充実に努め、当市産業経済の活性化に繋げたい。

とりわけ、宿泊が伴う滞在は高い経済効果を生み、その富の恩恵を受ける裾野が広い。宿泊が伴う来訪の増を目指したい。現状及び方策はどうか。

A 答弁 市内には18の宿泊施設があり、収納可能人員は1,244名、昨年の宿泊者数は約7万8千人となっている。最近の旅行者はインターネットで検索、予約する比率が高いことから、市内宿泊施設のホームページの活用状況を把握し、今後の対応策を検討していきたい。

ジオパークの取り組みについて

Q 質問 先般、日本ジオパーク委員会から、課題解決を条件に2年間の活動継続が認められた。恐竜を題材に幅広いジオパーク活動不足が指摘されているが、県がもっとリードする取り組みが基本であるべき。当市の取り組みが主では財政的に無理。県はどのように考えているのか。

恐竜を題材に幅広いジオパーク活動不足が指摘されているが、県がもっとリードする取り組みが基本であるべき。当市の取り組みが主では財政的に無理。県はどのように考えているのか。

その他の質問
・国民健康保険税の値上げについて
・「和食文化」の勧めについて

A 答弁 再審査の結果を踏まえ、ジオパーク推進協議会の中で恐竜博物館をジオパークの拠点施設から、恐竜研究のジオサイトと位置付けを見直すこととしている。今後、ジオパークの情報発信について一層の支援・協力を求めていく。

東京オリンピックと当市の関わりについて

Q 質問 人々に夢と希望と感動をあたえるオリンピックが6年後に東京で開催される。恐竜博物館にも世界中から多くの観光客が来訪する。当市の魅力を世界に広くアピールする絶好の機会にしたい。受入れ及びスポーツ文化振興の面から、どのようなイメージがあるのか。

人々に夢と希望と感動をあたえるオリンピックが6年後に東京で開催される。恐竜博物館にも世界中から多くの観光客が来訪する。当市の魅力を世界に広くアピールする絶好の機会にしたい。受入れ及びスポーツ文化振興の面から、どのようなイメージがあるのか。

A 答弁 台湾や香港、中国本土からの誘客のための取り組みがスキージャム、ニューホテルで進んでいる。市としても新年度に英語、中国語、韓国語のリーフレットを作成し、訪れた外国人観光客に情報を提供する予定である。スポーツ文化振興では、まずは福井県の成功に向けた様々な取り組みが進められているが、その先に開催される東京オリンピック等を見据え、県や体育協会と連携していきたい。

かつやま龍馬の会代表

松本議員

若者が元気になる街づくりについて

1 若者の地元就職支援について

Q 質問 競争の激しい世界において、今、勝山で生き残っている企業はどこも素晴らしい企業である。近年は成人式を見ても勝山に戻って来たいという希望を多く聞くようになってきている。結婚、子育てをするにも勝山の環境は最適であるが、この機会にもっと勝山の企業を若者に知らせるようにはすべきではないか。

今、勝山で生き残っている企業はどこも素晴らしい企業である。近年は成人式を見ても勝山に戻って来たいという希望を多く聞くようになってきている。結婚、子育てをするにも勝山の環境は最適であるが、この機会にもっと勝山の企業を若者に知らせるようにはすべきではないか。

A 答弁 学生へのアピールとして、福井労働局及び県が行っている奥越管内の高校生等を対象とした企業説明会への人的支援を行っているほか、市広報やホームページを通して企業説明会の開催状況や求人などの情報提供を行っている。また、企業の業務等をまとめた冊子「勝山ガンバル企業 誇れる技でものづくり誌」を小中学校、奥越管内の高校へも配布し、市内の企業の技術や製品等を認識してもらう資料として就職活動にも活動していただいている。

勝山市としては、企業説明会の開催等の情報提供など側面からの支援を行っているが、今後、企業の若者

その他の質問
勝山ブランド特産品開発と販売促進について
野外恐竜博物館オーブンに向けた勝山市の取り組みについて
自然エネルギーの活用促進について
勝山駅舎の再改修について

雇用に係るニーズを把握しながら、市としてどのようなことができるのか模索していきたい。

2 婚活支援について

Q 質問 女性が35歳を超えて出産するようになると、医学的にも大変リスクが多くなってくる。しかし結婚年齢は年々上がっているのが現状。地元就職奨励金と合わせ、地元結婚奨励金などを創設してはどうか。またすこやか内の結婚相談所の活動に併せて、若者が企画する婚活大作戦を行なってはどうか。

女性が35歳を超えて出産するようになると、医学的にも大変リスクが多くなってくる。しかし結婚年齢は年々上がっているのが現状。地元就職奨励金と合わせ、地元結婚奨励金などを創設してはどうか。またすこやか内の結婚相談所の活動に併せて、若者が企画する婚活大作戦を行なってはどうか。

A 答弁 出産に関しては「ここに妊婦奨励金」制度を創設しており、3人目以上のお子さんが生まれた保護者には、すくすく育成奨励金も支給している。結婚奨励金については創設していないが、他自治体でも同様の制度もあることから、今後研究したいと思う。

若者ならではのアイデアを活かした婚活活動への援助については、これまで勝山市青年団体連絡会や他の若者グループが精力的に交流イベントなどを実施しているため、連携や支援ができないか検討したい。